

## 日本和臺灣的請求・承諾・拒絶行動 —以金錢的借用為中心—

陳靜芬

廣島大學 國際協力研究科 博士生

### 摘要

近年來，日本和臺灣的「請求」會話調查盛行，不過調查者幾乎都作下「請拒絕對方」的設定，分析「請求」・「拒絶」的會話。但是，也有無法拒絶和很難拒絕對方的社會文化規範存在，因此，不只「請求」・「拒絶」，筆者認為「承諾」的分析也有其必要性。

本研究以請求・承諾・拒絶的整體語言行動，來探討對請求行為的負擔認識，還有實際採取什麼樣的行動，調查結果得知以下結論，期望藉此促進更深入的異文化理解。

1. 關於「請求行動」，台灣比日本「容易提出請求」，因此請求的次數比日本多。相對地，日本比台灣「盡可能不要給對方造成麻煩的想法，比較難提出請求」，因此請求次數比較少。

2. 關於「承諾・拒絶行動」，台灣比日本「承諾率」高，「無法提出拒絶」的比例較高。台灣人提出拒絶的話，幾乎都會伴隨補償行動（代替方案），然而日本人沒有補償行動（代替方案）的例子比台灣多。

**關鍵詞：** 請求 承諾 拒絶 語言行動 補償行動

## 日本と台湾の依頼・承諾・拒絶行動 —金銭を借用する場面を中心に—

陳靜芬

広島大学 国際協力研究科 博士課程後期

### 摘要

近年、日本と台湾における「依頼」の会話調査が盛んになってきたが、ほとんど「断ってください」という場面を設定して、「依頼」・「断り」の会話のみ取り扱ってきた。しかし、断れないか断りにくいという社会文化的規範の存在があると考え、「依頼」・「断り」のみならず、「承諾」も取り入れる必要があると考える。

本研究は依頼・承諾・拒絶の全般的な言語行動を通して、依頼行為に対する負担認識や実際に取る言語行動を分析し、以下のような結果が明らかになった。これにより、より深い異文化理解が促進されることを期待する。

1. 「依頼行動」について、台湾は日本より「頼みやすい」ため、依頼回数も比較的多い結果が解明された。反対に、日本は台湾より「できるだけ迷惑を掛けないようにするので、比較的頼みにくい」ため、依頼回数も比較的少ないことがわかった。

2. 「承諾・拒絶行動」に関して、台湾は日本より「承諾率」が高く、「断らない」割合が高いことが判明した。台湾人は断るなら、ほぼ補償行動(代案)を伴うのに対し、日本人は補償行動(代案)を伴わない場合も比較的が多いことが確認できた。

キーワード： 依頼 承諾 拒絶 言語行動 補償行動